

## 林西寺

### 林西寺へようこそ

泰澄大師（682-767）という仏僧は、悟りを求めてこの山に登ることを長年にわたり夢見ていました。言い伝えによると、ある夜、美しい女神が夢に現れ、泰澄大師にこう告げました。「私は白山の化身です。私を探したければ、白山の頂上まで登りなさい」。

この夢に駆り立てられた泰澄大師は、36歳の時2人の弟子を伴って山に入りました。彼らが登頂を達成したことから、白山は富士山、立山とともに日本三霊山のひとつとなりました。

主要な巡礼地である白山には、かつて数千体の仏像が点在していました。その多くは素朴な石の地蔵で、多くの場合参拝者が彫ったものでした。また、山腹の寺院には彫刻や銅製の傑作も安置されていました。何世紀にもわたって、人々は霊峰・白山と仏像の両方を信仰しましたが、明治時代（1868-1912）になると、政府は神道と仏教を強制的に分別する神仏分離という方針を打ち出しました。仏教は一転して排斥の対象となり、多くの仏教寺院が廃寺になったり破壊されたりしました。さらに、無数の仏像や仏具が破壊されました。

白山の山頂に続く登山道沿いにあった小さな寺も、その多くが破壊され、地蔵のほとんどが撤去されました。しかし、信心深い地元の人たちは、何世紀にもわたって山に立ち続けてきた仏像や地蔵を救うため、仏像や地蔵を山から運びおろして隠しました。これらの像のうち8体が現在林西寺に安置されています。

像 A は、千蛇ヶ池のそばにあった銅造地蔵菩薩像です。言い伝えによると、泰澄大師の時代、白山ではあまりにも蛇が多く、山に登る僧侶の修行の妨げになっていました。そこで、泰澄大師は1,000匹の蛇を集めて、いつも雪で覆われていた山頂のすぐ下の池に運び、氷に穴を開けて蛇を投げ入れました。このことから、池は千蛇ヶ池（1,000匹の蛇の池）として知られるようになりました。この池は、白山から流れる4大河川のうちの一本である手取川の水源でもあります。

像 B は、優美な銅造十一面観音像で、11世紀に作られました。小さい頭の「10」という数は悟りの段階を表し、一番上にあるやや大きい頭は観音の元の姿である阿弥陀仏を表しています。もとは御前峰直下にある室堂に置かれていたこの像は、最初に木で彫った型を後に銅で鑄造したものです。この観音像は鎌倉時代（1185-1333）後期に用いられたこの技法の数少ない遺例で、重要文化財に指定されています。

阿弥陀如来像（像 C）は、もともと標高2,684メートルの大汝峰山頂にありました。この優美な阿弥陀如来像の裏には1822年の銘があります。

泰澄大師と弟子たちは、717年に初めて山頂に到着した時、仏に祈りました。すると突然、光り輝く十一面観音菩薩が白山の最高峰である高さ2,702メートルの御前峰に現れました。3人はすぐに仏像を彫ってこの奇跡を称え、それを山頂に据えました。像Dは、この木像を再現したのですが、風雨によって劣化しています。1824年に銅で鑄造された、重量207キログラム、像高109センチメートルのこの観音菩薩像は、この高さの山に設置された像としては世界最大級です。白山での運搬を容易にするために分割して鑄造されましたが、破壊されないように地元の人々が撤去した際にも、このことが功を奏しました。

像Eは、もともとは別山山頂に置かれていた聖観音像です。阿弥陀如来像の作者でもある藤原富臣により銅で鑄造されました。鑄造時期は1822年頃とされます。

像Fは、1712年に彫られた木造薬師如来像です。薬師如来は、治癒と医を司る仏です。もとは白山の山麓にある市ノ瀬温泉の源泉に安置されていました。

木像Gは、717年に初めて白山登頂を成し遂げた泰澄大師（682-767）という仏僧によって彫られたと言われています。もとは檜之宿という古い登山道の入口に設置されていたものです。現在、像の上半身だけが残っています。

現在の登山道を使うと、山頂までの所要時間は約5時間です。しかし、泰澄大師とその弟子2人が登頂を試みた時、そのような山道はありませんでした。像Hは、初めて白山の登頂を達成した時の泰澄大師をかたどった木像です。1611年に彫られたものです。

- A.銅造地藏菩薩座像（1183年）
- B.銅造十一面観世音菩薩立像（11世紀）
- C.銅造阿弥陀如来座像（1822年）
- D.銅造十一面観世音菩薩座像（1824年）
- E.銅造聖観世音菩薩座像（1822年）
- F.木造薬師如来座像（1712）
- G.木造釈迦如来像（8世紀）
- H.木造泰澄大師座像（1611年）